



目次

ページ	項目
1~6	平成19年度 関東農政局 国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰
7	土地改良事業地区営農推進優良事例表彰
8~9	平成19年度営農推進講演会の概要
10	「国営土地改良事業地区における営農課題 解決に向けた課題別支援事業概要集」の紹介



平成19年度関東農政局 国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰

平成19年度の関東農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者として、有限会社 南太田営農組合(新利根川沿岸地区/茨城県)、神川花卉生産組合(神流川沿岸地区/埼玉県)、JAふえふき御坂ブロック花卉部バラ部会(笛吹川地区/山梨県)、農事組合法人 小田多井生産組合(安曇野地区/長野県)、JAとぴあ浜松ぶどう研究会(浜名湖北部地区/静岡県)が関東農政局長賞を受賞し、表彰式が、関係者出席のもと平成19年12月12日(水)に、さいたま新都心合同庁舎で開催されました。

有限会社 南太田営農組合(茨城県)、神川花卉生産組合(埼玉県)、JAふえふき御坂ブロック花卉部バラ部会(山梨県)、農事組合法人 小田多井生産組合(長野県)、JAとぴあ浜松ぶどう研究会(静岡県)が受賞



受賞団体の功績概要

“新技術で地域の水田農業を牽引”



有限会社 ^{みなみおた}南太田営農組合

【茨城県稲敷市】

受賞理由

- ① 土地利用集積による効率的な土地利用型農業の確立
- ② 先進的な農業技術の確立
- ③ 農業技術の普及への貢献

地域農業を担う法人の設立

国営新利根川沿岸地区(S56～H4)は、茨城県の南東部に位置し、利根川左岸に隣接する沖積低平地の農業地帯に位置しています。

事業によって、安定した用水の確保と排水能力の向上が図られ、転作可能な生産性の高い汎用農地へと変わったことを契機に、これまで地域に定着していなかった転作作物を導入するとともに、地域の担い手として、集落の水稻も経営に取り入れ、平成16年に法人化、平成17年には、茨城県で最初の特定農業法人に認定されています。



土地利用集積による効率的な土地利用型農業の確立

南太田西部地区農用地利用改善団体と調整を図りながら、南太田西部地区の水田の約90%と周辺集落の水田を利用集積するとともに、大型機械や先進的な技術の導入を行うなど、生産コストの低減を図り、省力的な水稻栽培と麦、大豆の転作による効率的な土地利用型農業を確立しています。

また、地域の農家が事情により作付けができなくなった場合に率先して耕作を請け負うことで、耕作放棄地発生未然防止にも貢献しており、地域農業の担い手として活躍しています。



先進的な農業技術の確立

試験研究機関と共同で水稻の乾田直播栽培や大豆の不耕起狭畦播種栽培などの先進的な技術の実証栽培に取り組み、省力的な栽培技術を確立しています。

また、高収益な経営を目指して新たに施設いちごを導入するとともに、関係機関からの各種支援の下で、ナイアガラ育苗などの栽培技術を導入し省力的ないちご栽培技術を確立しました。



農業技術の普及への貢献

試験研究機関と共同で開発・確立した先進的な農業技術の普及定着を目的に開催された現地検討会において、南太田営農組合の代表自らが率先してその成果を発表しています。

また、先駆者として県内外からの視察にも積極的に応じるなど、確立した技術の普及に大きな役割を果たしています。



国営事業により整備された基盤を活用した効率的な土地利用型法人経営は、周辺地域の模範となっており、地域内外を問わず毎年多くの視察者を受け入れ、国営新利根川沿岸地区の営農推進に貢献しています。

“周年栽培による効率的な土地利用型切り花経営”

かみかわかき 神川花卉生産組合

【埼玉県児玉郡神川町】



受賞理由

- ① クジャクソウの周年栽培技術の確立
- ② 高い市場評価の確立と維持
- ③ 土地利用集積による規模拡大

事業を契機に花き栽培を開始

国営神流川沿岸地区(H16~H24)は、埼玉県北西部を流れる一級河川利根川水系神流川の沿岸に広がる水稲と野菜等を組み合わせた複合経営を展開する農業地帯に位置しています。

事業の実施により、十分な用水が確保され安定的な畑作経営が可能となったことにより、それまでの養蚕経営に限界を感じ、花き栽培に転換したいと考えた生産者が集まり、神川花卉生産組合の母体となる組織を設立しました。



高い市場評価の確立と維持

市場・消費者ニーズに常に対応していくため、組合独自の共同研究ほ場を設け、交配育種を行い、組合育成のオリジナル品種として品種登録を行っており、神川のブランド商品「ホワイトクィーン」は、広く全国に出荷されている品種となっています。

また、組合で栽培方法・品種等に関する栽培協定、出荷規格を設定し、厳しく遵守するとともに、常に消費動向を調査し、トレンドをつかんでいます。

これらの取組により、当組合のクジャクソウは市場における評価が非常に高く、現在、京浜市場における当組合のクジャクソウの取引価格は、他産地を凌ぐものとなっています。



クジャクソウの周年栽培技術の確立

神川花卉生産組合は、クジャクソウの先駆的生産者集団であり、その栽培技術について試行錯誤を繰り返し、遮光処理による促成栽培、電照処理による抑制栽培を導入することにより、周年栽培技術を確立しました。

また、作期ごとに定植する苗を品質を維持したまま冷蔵貯蔵する技術を開発し、年間を通じて高品質なクジャクソウを出荷できる体制を築き上げています。



土地利用集積による規模拡大

栽培技術の向上により周年出荷が可能となり、労力分散が可能となったことから、規模拡大を望む生産者も出てきたため、農用地流動化を積極的に行い、規模拡大を進めています。

また、水田では集団で花き転作に取組み、転作の団地化を図る等、他地区の模範となっています。

このように、当組合は整備された基盤を活用した畑地かんがい営農を展開し、周辺地域の模範となっています。

現在では、上里町、美里町、児玉町の花き生産組織を組み入れた児玉郡切花花き研究会を設立し、この活動を通じて畑地かんがいの有用性のPRにも努め、県内外から多くの視察者が訪れています。

“笛吹川用水を活用したバラのロックウール栽培”



JAふえふき^{みさか}御坂^{かさ}ブロック花卉部バラ部会

【山梨県笛吹市】

受賞理由

- ① バラのロックウール栽培技術の確立
- ② ブランド化に向けた取組
- ③ 国営笛吹川地区の営農推進に貢献

事業を契機に連作障害を克服

国営笛吹川地区(S46～S63)は、山梨県のほぼ中央、甲府盆地の東部に位置し、奥秩父山系の国師岳を水源とする笛吹川及びその支流によって形成された扇状地群とその背後の管根丘陵に拓けた樹園地からなる農業地帯に位置しています。

事業の実施によって、恒常的な水不足が解消され、良質な用水の安定供給が可能となったことから、連作障害により品質、収量ともに低下し、問題となっていたバラ生産をロックウール栽培に転換し、高品質なバラ生産を実現しています。



ブランド化に向けた取組

種苗会社と提携し、新品種を部会の統一品種として植え付け、高品質生産に取組み、市場に対し、新たな「みさかのバラ」の顔として売り出しています。

また、部会として「父の日のバラプレゼント」キャンペーンなどを行い、バラの消費拡大に向け、新しい贈答習慣の創出にも力を入れています。



バラのロックウール栽培技術の確立

JAや農業改良普及所(現農業普及センター)等とともに研究を重ね、栽培ステージごとの養液管理技術を確立し、バラのロックウール栽培の本格的導入を推進しています。

平成3年、剪定作業の労力軽減のため、培地を床置き式からベンチ式としたアーチング栽培に転換するとともに、養液管理の自動化など、新たな省力化技術の導入を推進しました。

現在では、ロックウール栽培は全バラ栽培面積の約8割以上を占めるまでになっています。

国営笛吹川地区の営農推進に貢献

バラのロックウール栽培は、山梨県が作成した畑地かんがい推進用パンフレットにも掲載され、国営笛吹川用水地区内外を問わず視察者を受け入れるなど、笛吹川用水を有効活用した優良地区として知られており、国営笛吹川地区の営農推進に貢献しています。

これらの取組を通じて、果樹王国として知られる山梨県において、県内唯一の切りバラ産地として花き産地の発展を促進し、「やまなしブランド」の推進に貢献しています。

“ブロックローテーションによる効率的な集団転作”



農事組合法人 こだたい 小田多井生産組合

【長野県安曇野市】

受賞理由

- ① 土地利用集積による効率的な土地利用型農業の確立
- ② 転作作物の販路を開拓
- ③ 農村と都市の交流の促進

地域農業を担う農事組合法人の設立

国営安曇野地区(H7～H17)は、北アルプスと美ヶ原高原に囲まれた松本盆地西部の通称「安曇野」と呼ばれる複合扇状地に広がる農業地帯に位置しています。

事業によって、地域の排水状況が抜本的に改善され、逸水被害に脅かされる不安定な経営から解放されたことを背景に、今後の地域農業の担い手として魅力ある農業経営の確立を目指して、それまでの機械利用組合を発展的に拡大し、平成16年、安曇野地区第1号となる農事組合法人 小田多井生産組合を設立しました。



土地利用集積による効率的な土地利用型農業の確立

集落の水田の約3割を利用集積し、大型機械やブロックローテーション方式の導入による集団転作に取り組むとともに、輪作体系に新たにそばを導入し、効率的な水田農業経営を確立しています。

また、地域の農家が事情により作付けができなくなった場合に率先して耕作を請け負うことで、耕作放棄地発生未然防止にも貢献しており、地域農業の担い手として活躍しています。

さらに、肥効調節型肥料を用いた基肥一発施肥による施肥作業の省力化に向けた実証栽培にも取り組んでいます。



転作作物の販路を開拓

小麦の裏作として栽培するそばは、適切な肥培管理や排水対策を実施することで安定的な生産が行われており、品種が風味豊かな在来種であることもあり、実需者からの指名買いが行われるなど高い評価を得ています。

現在では、年間生産量の約2割を地元のそば店や食堂などへ直接販売するなどの販路を開拓したことで、安定した出荷先が確保されるとともに収益性も向上しています。



農村と都市の交流の促進

平成10年から、地元小田多井地区が受け入れ先となって実施している農村交流事業では、小田多井生産組合の理事全員が実行委員となり、現地体験学習で小田多井生産組合が生産したそばを使った蕎麦打ち体験を行うなど、農村と都市の交流の推進活動を実施しています。

国営事業により整備された基盤を有効活用したこれらの取組により、小田多井生産組合は地域農業の担い手として、JAの広報誌に掲載されるなど地域の模範とされており、安曇野地区の営農推進に大きく貢献しています。

“浜名湖北部用水を活用したぶどうの施設栽培”



JAとびあ浜松ぶどう研究会

【静岡県浜松市】

受賞理由

- ① 高収益作物の導入と栽培技術の確立
- ② 高級ぶどうとしての高い知名度を達成
- ③ エコファーマーの認証取得の推進

事業を契機にぶどう栽培を開始

国営浜名湖北部地区(S50～H元)は、静岡県西部浜名湖の北側に位置し、浜松市北区の丘陵性山地の斜面及び洪積台地に分布する樹園地からなる農業地帯に位置しています。

とびあ浜松農協(旧都田農協)は、みかん暴落後の新規導入作物として、また、夏場の収入源作物として、ぶどう「ピオーネ」の産地化を模索していましたが、当地区はブドウ産地としては雨が多く、施設化が必須でした。

JAとびあ浜松ぶどう研究会は、事業によって、畑地かんがい施設が整備されたことにより施設化が進み、的確な水分コントロールが可能になったことから、県下でいち早くピオーネの栽培に取組み、高い品質のぶどう生産を実現しています。



ピオーネの導入と栽培技術の確立

ハウスなどの施設化と、整備したかん水施設の利用による的確な水分コントロールにより、高い糖度と芳醇な香りというピオーネの持つ高い品質特性を発揮しています。

また、有利販売・労力軽減のため、冬期加温による早期収穫技術の確立、消費者の嗜好に対応するため、種なし技術の導入など、研究会員が一丸となって品質向上に取組み、産地形成を達成し、高い収益性を確保しています。



高級ぶどうとしての高い知名度を達成

当初、無名のピオーネは販売に苦戦を強いられましたが、昭和57年の東京サミットへの提供などを契機に販路を序々に拡大し、東京、名古屋への出荷が始まりました。また、認知度アップ目的に開設した観光ぶどう狩り園では、口コミにより評判が広がり、県内外から多くの来園者があります。

現在では、県内(浜松市場)を中心に高級ぶどうとして高値で取引されている他、高級デパート、企業の贈答品などとして人気が高くなっています。



エコファーマーの認証取得の推進

平成17年には、研究会会員の5名がエコファーマーの認証を県内のブドウ生産者で初めて取得しました。環境にやさしいブドウ栽培を進めています。

国営浜名湖北部用水を有効活用したJAとびあ浜松ぶどう研究会の取組は、みかんの産地である当地区においても、高品質・高生産性ぶどう栽培が可能であることを証明し、畑地かんがいの有用性をアピールしています。

また、研究会は先進的な取組として多くの視察者を受け入れています。

土地改良事業地区営農推進優良事例表彰 受賞団体の概要

平成19年12月7日（金）、砂防会館（東京都千代田区）において、農林水産省及び全国土地改良事業団体連合会の主催により「平成19年度土地改良事業地区営農推進優良事例表彰」の表彰式が開催されました。

関東農政局管内では、国営両総地区の農事組合法人みらい（千葉県香取市）が農村振興局長賞を受賞しましたので、その取組内容を紹介します。

受賞団体の概要

名称：農事組合法人みらい
所在地：千葉県香取市大戸川
構成員数：5名（専業）
経営面積：43.0ha
主要作物：小麦、大豆、水稻〔部分作業受託〕



○大型機械化作業体系の確立

汎用化された大区画ほ場の条件を活かし、乾燥調製施設を核として大型汎用コンバイン（緊プロ農機）や防除用無人ヘリコプターなどを導入した大型機械化作業体系により、大幅な労働時間の節減を達成し、地域の転作の全面積（約80ha）を経営するほか、水稻の作業も受託（延べ136ha）するなど地域農業の担い手として活躍しています。



○地産地消（千産千消）の取組

自ら製粉した小麦粉を業者に委託して製造した乾麺やパンを「ふるさとフェスタさわら」で販売し、地元産食材のPRを行っています。

また、地域の女性や子供達と試作や試食を行いながら、うどんや味噌などの商品開発に取組むなど、地域の活性化にも貢献しています。



地域の概要

国営かんがい排水事業「両総地区」は、千葉県の北東部に位置し、香取市外5市7町1村にまたがる県下最大の農業生産地帯に位置しています。

当法人が活動している地域は、利根川下流域の低湿地帯であり、十分な排水条件が確保されていなかったため、事業実施前は転作が不可能な地域と考えられていましたが、国営事業による用排水施設の整備と国営関連事業によるほ場整備によって、生産性の低い小区画湿田が生産性の高い大区画汎用農地に生まれ変わり、効率的な土地利用型農業が展開されています。

取組の概要

○高品質大豆生産体制の確立

品質の向上に向けた各種試験栽培の取組みや大型機械による適期収穫により、1等級比率9割以上を誇る高品質大豆の生産体制を確立しています。



当法人は、整備された基盤のメリットを活かし、地域に定着していなかった転作作物を導入するとともに、栽培技術を確立し、大区画ほ場に適した大型機械化体系を導入することで、効率的な土地利用型農業を確立しています。現在は、小麦・大豆栽培のモデル的経営体として広く知られるようになり、県内外から訪れる数多くの視察者を受け入れるなど、整備された基盤を活用した経営の成果を広く波及させています。

転作が不可能といわれていた地域で転作作物を中心とした経営を行う本法人のような経営体が現れたことで、利根川下流域の低湿地帯において基盤整備実施に向けた動きが活発になるなど、周辺地域にも事業効果が波及しています。

営農推進講演会の概要

関東農政局国営土地改良事業地区営農対策委員会では、平成19年10月9日(火)、さいたま新都心合同庁舎2号館において、「営農推進講演会」を開催しました。以下はその講演概要をまとめたものです。

青果物流通の現状と産地への期待

講師 神木良和氏

株式会社東急ストア 商品本部青果部長



青果物流通の現状

スーパー全体はこの5年間「上質化」へ向かっています。私どもでは、有機や特別栽培農産物のことを「健・康・菜・果」と称して売り場を設けていますが、取扱量を、現状の全野菜の中の18%から、3年以内に30%にまで持っていきたいと考えています。

配送については、市場からの配送のほかに物流センターからも青果物の軟弱商品を保冷車で1日3便配送しています。朝・昼・晩の配送をすることで、夕方のお客様に備えて朝取りのレタスやキャベツ等を導入します。スーパーでは、朝取り・有機・地元こだわった商品は人気が高く、通常のお客様モニター調査の結果によると2~3割は高くてもお買い上げいただけるといわれています。



なかなか量を野菜・果物で摂るのは難しい。果汁として、ジュースとして、サプリメントとして摂る、そういう消費が増えているのではないかと思います。

量販店が求める商品

量販店が求める商品とは、価格競争にならないものです。比較されないために、朝取りだったり、有機だったり、エコファーマーだったり、おいしかったり、糖度センサーを通過していたり、限定数量だったり、地元だったり、こういった特徴ある商品、高品質の商品を求めます。他社が参入しにくい商品が欲しいんです。それが農産物の比較されない、高く売るコツ、年間を通して売るポイントです。

3. 量販店が求めている商品(売ってほしい商品)

- 価格競争にならないように
- 付加価値のある商品 (有機・エコファーマー)
 - 食品類の他品 (野菜・肉類)
 - 限定数量の商品 (数量制限あり)
 - 当店でだけ販売している商品 (地元野菜・朝取り)
- 他社が参入しにくい
- 生産・販売するのが難しい商品 (例: 甘夏類の朝取り)
 - 他社がやる = 競合が強い
 - 他社の強みを生かす
 - 土質・気候、有機栽培、大玉・美味し・旬品)

今後の食料消費

今後、日本の人口は年間70万人減少すると言われてます。食品消費も年間約5,000億円減少することとなります。青果物の一番の競合は野菜のジュースです。それからサプリメント。



産地への期待

生産者の方には、スーパーに行って、どういう売り方をされているかを見て欲しいと思います。また、売り先を決めた流通形態をとってほしいと思います。ただ市場に出すだけでは、買ったたかれてしまいます。一部でもいいですから、地元のスーパーに持って行くとか、予約相対をやって売り先を決める。つまり責任をもって出す。

また、大事なものは競合がある中で、特徴ある商品をつくるということなので、差別化ができるとう高く売れます。それはそれなりに大変だと思います。ですけれども、ぜひトライしてほしいと思います。

水で潤う緑の郷～赤城西麓地区における畑地かんがいについて～

講師 桐澤玉城氏

赤城西麓土地改良区 事務局次長

事業を契機とした畑かん振興

群馬県の中央に広がる本地区は、日照時間が多い割には、年間平均降水量が1200mmという雨が少ない地域であるため、干ばつに強い作物であるコンニャク栽培が中心で、不安定な営農を余儀なくされていました。このため、根利川を水源とする国営赤城西麓農業水利事業を導入し、高収益が見込める作物への転換を図るため、畑地かんがい施設等の整備を推進しました。



整備されたほ場に作付けされたレタス

土地改良区の営農への係わり

「土地改良区は畑作営農に積極的に関与していくべき」との信念のもと、平成4年に県、普及組織、市町村、農協、改良区からなる「赤城西麓用水営農推進協議会」を組織し、新規作物の実証ほ設置、畑かん営農のデモンストレーション、農作物共励会への参加、表彰事業の実施等を行い、畑地かんがい技術の普及と向上を目指しています。



新規作物パプリカの
雨よけハウス実証ほ



担い手農家との
灌水タイマー設置試験



営農部分について説明する
同土地改良区管理調整課係長
加藤厚徳氏

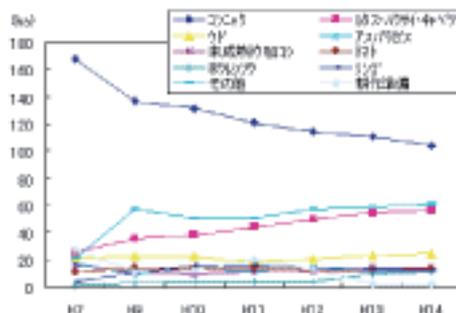


また、赤城西麓では不凍結給水栓を設置することにより、冬期間におけるハウス栽培が可能となり作期の拡大が図られています。

取組の成果

こうした生産者、関係機関が一体となった取組みにより、畑かん整備率は約7割、事業実施前に大勢を占めていたコンニャク主体の複合経営農家は減少し、規模拡大を図ったコンニャク専業農家、レタス等露地野菜専業農家、ほうれんそう等収益性の高い施設野菜栽培と露地野菜の複合経営農家が多く見られるようになりました。

労働力分散、規模拡大が可能となり、効率的な経営が展開され、農業経営の改善が図られています。また、生産者の高齢化が進行する中で、本地区における耕作放棄地は皆無となっています。



作付作物の推移（昭和第3地区）

今後の展望

今後は、担い手を育てていく観点から、連担して農地集積ができるよう、農業委員会等関係機関と連携して地図情報システムを構築し、生産者に提供していく予定です。

また、消費者ニーズに対応した安全・安心の農産物づくりという観点から、地域団体商標の取得等によるブランド化の推進や環境保全型農業への取組支援を行っていきます。

今は、土地改良区も営農と事業をどう関連づけるのかを考えながら、農協や普及組織と一緒に生産者の営農を支援していく時代だと思っています。事業完了してからでは遅い。事業実施中から考えていく。それが担い手対策や耕作放棄地対策にもつながっていくと思います。

営農を通じて、土地改良区ができることはたくさんあると思っています。

国営土地改良事業の効果を十分に発揮するためには、整備された基盤を活かした営農の展開が必要です。このため、関東農政局では国営土地改良事業地区の営農推進を図るため、局の室部課横断的な組織「国営土地改良事業地区営農対策委員会」を設置し、資源課がその事務局を担当しています。

今回、その活動の一環として、「国営土地改良事業地区における営農課題解決に向けた課題別支援事業概要集」を作成しました。

この支援事業概要集は、それぞれの国営事業地区で抱えている様々な営農課題に対し、どのような国の補助事業や交付金が活用できるのかを簡単に逆引きできるのが特徴です。

是非、各地区の営農課題解決にお役立てください。

国営土地改良事業地区における営農課題解決に向けた課題別支援事業概要集

<構成>

①課題別支援事業一覧

- ・課題
- ・課題への対策
- ・活用可能な補助金・交付金名
- ・メニュー名

②支援事業の概要

- ・事業内容
- ・主な要件
- ・補助率
- ・相談窓口
- ・農政局担当課
- ・その他（HPアドレス等）

③支援事業のPR版

PR版、パンフレット等



編集後記

表紙の写真は、平成19年度関東農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰地区である「国営神流川沿岸地区」のスプリンクラーを利用したゴールドクレストの栽培風景です。

昨年の夏は猛暑となり真夏日が多く、干ばつに強いこんにゃくでさえ葉が焼けて茶色になっていました。

ゴールドクレストは水しぶきを受け、一層鮮やかな黄緑色に輝いていました。

編集発行

関東農政局国営土地改良事業地区

営農対策委員会事務局

関東農政局農村計画部資源課

〒330-9722埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

さいたま新都心合同庁舎2号館

TEL 048-740-0515(9:00~17:00)